



TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saiko.jtu@maple.ocn.ne.jp

2025年度 賃金確定交渉 始まる 大幅賃金アップの勧告を受けて労働条件改善はどこまで進むか？

今年の人事院・人事委員会勧告は30年ぶりの3%を超える給与増勧告であり、若年層のみならず、高齢層にも幅広く賃金改善が勧告されている。再任用も月額1万円の改善である(年20万弱)。

その他、「通勤手当」改善で駐車場代が新設されるなど、賃金部分でのプラスが目立つ。

22歳 2級 5号 272,000円 6.26%
35歳 2級 62号 290,000円 4.28%
45歳 2級103号 291,000円 3.71%
55歳 2級137号 296,000円 3.58%

しかし、人事院・人事委員会の勧告をよく読めば、こうした改善は「人材不足」対応、つまり公務員希望者が民間に流れていることへの対応が第1である。すでに働いている職員全体の改善よりも人材確保が主眼である。

地公労交渉第1回 11月7日（金）

教育局当局提案・給特法改正部分

知事部局・県教委の部長が参加しての交渉が「地公労」交渉である。埼玉県で働く県職員全体の賃金・労働条件改善について交渉するのだが、第1回の7日には県教委からの回答として、給特法改正に関する提案が行われた。

①教職調整額の引上げ

2026年1月4%→5% (2031年1月10%)

※管理職についても給料月額の加算実施

②義務教育等教員特別手当の見直し

・1.5%→1%へ引き下げ

・学級担任手当新設 月額3000円

私たち日教組は給特法の廃止=ただ働き制度をやめさせ、超過勤務に対する適正な支払いを求めてきたが、今回の改正は教職調整4%の10%化で

あり、段階的に1%あげていく。しかし今回は義務教特別手当引下げで実質0.5%アップ、詐欺である。

教育局交渉第1回 11月18日（火）

学級担任手当は「均等支給」を求める

第1回目は「回答を聞く」時間が長いためやりとりが限定される。質問、要求の一部を紹介しよう。

①学級担任手当は特支では不支給。学校は全体で仕事を行う。担任だけへの手当支給に反対である。我々から他県動向を示すので改善を求めたい。

②標準時数を超える小中の授業実態、インフルエンザで4割欠席で出席停止とせず授業実施。

③高校の土曜授業廃止への道筋は如何。

④特別支援で担外を無理矢理設定、担任業務が増加している実態をどうする。

⑤部活動ガイドラインで平日2時間・土日3時間は本当なのか。ワースト20を示して欲しい。

⑥平日に生徒募集の勤務時間外「イブニング説明会」新規導入管理職（元県教委幹部）。学校評価シートにも書き込む。県教委はこれを許すのか。

⑦カスハラ外部対応の実現に向けて。

県教委の「本気」はどこに？

県教委は「2024年度末までに月45時間・年360時間以内100%」してきた時間外在校等時間について、「一定の成果」はあれど実現できないまま新たな基本方針で「2027年度末100%、2029年度月30時間」を目標に掲げた。

数値目標・アピールは結構。県教委作成「業務改善スタンダード」には「働き方改革を本気で進めよう」としている教育委員会・管理職のため」というふう。わかった。私たち教職員に向けても本気を示してくれたまえ。次回交渉に期待する。

12/6(土)は第4回くじら会議 &青年部主催の学習会です

くじら青年部です。早いもので2025年ももう終わりですね。

さて、12/6(土)は第4回くじら会議&青年部主催の学習会が行われます。以前のくじら会議でも青年部が中心になって「生徒指導」に関するアレコレを討論させていただきましたが、今回はその第二段です！テーマは、「マイノリティの生徒への生徒指導について」です。

現在くじら青年部組合員はいわゆる一般の高校に所属している方だけではなく、夜間定時制高校、昼夜三部制高校、通信制高校、特別支援学校、特別支援分校等、あらゆる学校種で活躍されています。そのため、毎月1度行われている青年部会で共有される各学校の様子・問題も多種多様であり、生徒指導の面でも「日々奮闘している状況です。

例えば、精神的な難しさを抱えている生徒が不登校になってしまったときにどのような指導をすればよいのか。また職員室への入室が精神的な部分で困難な生徒に対して「就労」という進路を盾にどこまで迫るべきなのか。あるいは今とっている対応が果たして合理的配慮に値するものなのか。原級留置から

転学の手続きを済ませ、別の学校に合格していたがやっぱり戻りたいと話す生徒にどのように対応すべきなのか、など挙げればキリがないほどです。

これらすべてのテーマについて議論を交わしたいところではありますが、今回は特に「外国籍の生徒にまつわる指導」をメインテーマとします。

皆さんの学校にはどのくらいの数の外国籍の生徒が在籍しているでしょうか。とある夜間定時制の学校は全生徒の約1/4が外国籍の生徒という状況であり、文化的な面及び言語的な面で対応に困っているという報告がされています。その内容は当日詳しくお話しさせていただければと思いますが、文化や体質の違いによるナイーブに扱わざるを得ない事象、日本語力の不足から来る指導の通らなさなど、これからより問題が一般化していくであろう多様な人々と共に生きる在り方について、皆さんのご意見をいただき、また議論を交わしたいと考えています。

今回のくじら会議は、今年度初めて北部・熊谷の「熊谷文化創造館さくらめいと」(最寄駅籠原)で開催されます。南部開催では遠くて顔を出すことができなかった組合員の皆さん、ぜひお集まりください！

教職員共済

年金共済

年金共済・適格年金共済



いつも・いつまでも教職員サイド！今年で創立60周年の教職員共済埼玉県事業所からのご案内！

20代、30代の方が資金形成するうえで、「時間」は一番の味方です。「時間」を有効活用するための一つの方法として、私たち教職員共済の「年金共済」をご活用されることをおすすめします！

例えば、「年金共済」で65歳まで積み立てたら…



※ご契約にあたっては必ず各共済のパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

各種お問合せ・資料のご請求先 教職員共済埼玉県事業所 TEL: 048-823-4055またはホームページへ